

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立近衛中学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善・わかる授業の実践	・授業改善・わかる授業の実践 ・全教員による校内授業研修会(授業・見学)	・生徒による授業評価
	家庭学習の習慣化	・各学年の家庭学習の習慣化	・週末の課題提供状況
	学力不振生徒の取組	・未来スタディやテスト前学習会等の実施 ・学力不振生徒の職員会議等での取組の報告	・未来スタディや定期テスト前の学習会の実施・参加状況
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・規範意識を高めるために、地域や学校を中心に規範意識の推進	・地域活動への参加状況と活動評価 ・補導報告における生活実態報告
	道徳教育の推進	・道徳教育の時間確保と系統だてた資料の準備	・道徳教育全体計画の実施状況
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の点検 ・人権学習の実施 ・体育的行事の実施	登校指導・生活指導の状況 ・食教育の講演 ・体育大会の実施
	薬物乱用等の教室の実施	・薬物乱用等の教室の実施	・生徒の感想文
独自の項目	小中一貫教育の推進	・6校合同研修会の実施 ・小中一貫教育の推進 ・「近衛に行こう」の実施	・6校合同研修会の実施状況 ・小中一貫教育の実施



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年9月2日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
わかる授業の実施により、わかる生徒が増えている。	生徒アンケートで、わかる授業が少しずつ多くなっているが、低位の学力の生徒には、まだまだわかりにくい状況がある。	わかる授業の工夫や、理解度の確認を常に行う授業を構成する。
少しずつ習慣化しているが、生徒の意識が定着していない。	学力低位の生徒は、長期休業時の学習会等で補充し、日々の継続的な学習指導が必要である。	学年単位で、低学力生徒への放課後学習会等の取組を充実させる。
学力不振生徒の意識も高まり、少しずつ学力の定着が見られる。	定期的な学習会の実施で学力補充は徐々にできている。	特に3年生については、補充学習会等を計画的実施する。
日常生活や授業の規律はほぼ守られている。生活指導の必要な生徒は少ないが、基本的生活習慣がまだ確立していない生徒は数人いる。	授業の規律は、今後も守れるように指導する。基本的生活習慣に関わることについては、絶えず観察・注意を行い、全教職員で指導に取り組む。	授業の規律は、今後も守れるように指導する。基本的生活習慣に関わることについては、観察・注意を行い、全教職員で指導に取り組む。
道徳教育の系統的な取組の確保はできているが、生徒の日常生活への反映が弱い。生活に密着した取組が必要である。	生徒の実態に合った道徳資料の収集と利用方法の研修を行う。道徳の時間の確保とあらゆる機会を通じて指導を行う。	道徳の時間の確保とあらゆる機会を通じて指導を行う。
人権学習等での指導案の共通理解はできているが、教師間の人権意識の向上が必要である。	教師間の人権意識を向上させる研修会の充実を図る。生徒の健康状況は、定期検診で把握できている。	生徒の健康状況は、絶えず把握する。
薬物等外部講師の教室で理解を深めている。	薬物等の教室を実施し、生徒の理解を深める。	薬物等の教室を実施し、生徒の理解を深める。
第2回6校合同研修会の実施ができた。6校合同研修を通して、小中の教員が話し合いをもった。	6校合同研修会を中心に、小中一貫の取組は、分掌単位の連携を進める。	6校合同研修会を中心に、小中一貫の取組は、分掌単位の連携を進める。



学校関係者評価	
評価日	平成28年9月12日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
生徒は、授業を整然と受けている。しかも、積極的に発言している。	自由参観日等で授業参観を増やして、生徒の様子を保護者・地域に公開する。
家庭学習の実態はわかった。	今後も取り組んでほしい。
不登校の生徒が多いことがわかった。個々の生徒に対応していることがわかった。	不登校生徒や学力不振生徒への取組をすすめてほしい。
行事等に参加していて、生徒が自主的に規律ある行動をとっている。	不登校の生徒が登校できるように、学校・保護者等が連携を取組を行う。
地域の方から、先生が個々の生徒に対して、細かく見てくれていると聞いている。	地域や保護者が参加できることを増やしていく。
挨拶もできており、元気に登校する姿を見ている。	地域で子どもたちを育てるので、学校もさらに協力を願いたい。
生徒に学習できる機会が多いことは、よい。	薬物乱用や防煙教室に保護者も参加できるように設定してほしい。
生徒たちが生き生きと学校で育っている。	教師間で連携して地域の子どもを育ててほしい。地域も協力する。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善・わかる授業の実践	・授業改善・わかる授業の実践 ・全教員による校内授業研修会(授業・見学)	・生徒による授業評価
	家庭学習の習慣化	・各学年の家庭学習の習慣化	・週末の課題提供状況
	学力不振生徒の取組	・未来スタディやテスト前学習会等の実施 ・学力不振生徒の職員会議等での取組の報告	・未来スタディや定期テスト前の学習会の実施・参加状況
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・規範意識を高めるために、地域や学校を中心に規範意識の推進	・地域活動への参加状況と活動評価 ・補導報告における生活実態報告
	道徳教育の推進	・道徳教育の時間確保と系統だてた資料の準備	・道徳教育全体計画の実施状況
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の点検 ・人権学習の実施 ・体育的行事の実施	登校指導・生活指導の状況 ・食教育の講演 ・体育大会の実施
	薬物乱用等の 教室の実施	・薬物乱用等の教室の実施	・生徒の感想文
独自の項目	小中一貫教育の推進	・6校合同研修会の実施 ・小中一貫教育の推進 ・「近衛に行こう」の実施	・6校合同研修会の実施状況 ・小中一貫教育の実施



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	
	評価者・組織	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
わかる授業の実施により、わかる生徒が増えている。	生徒アンケートで、わかる授業の工夫は少しずつ進んでいるが、低位の学力の生徒にとっては、まだまだわかりにくい状況が課題があるのが日常化してきている。 各自が自分の得意な部分の発見と対策ができるようにする。	わかる授業の工夫や、理解度の確認を常に行う。 学年単位で、低位の生徒への取組を充実させ、生徒に学習会等の目的を明示し、意識を持って参加させる。 特に3年生には、補充学習会等を計画的実施する。
習慣化しつつあるが、個々の生徒の意識はまだまだ定着していない。	学力低位の生徒は、未来スタディ等を利用し、長期休業時の学習会等で補完しているが、日々の継続的な指導が必要である。	未来スタディの活用と学習会の意識を持って参加できるようにする。
未来スタディ・学習会等での参加が増えてきている。	地域行事に参加し、地域からもよい評価を頂いている。授業や補導での問題は少ない。	基本的生活習慣に関わることにについては、絶えず注意を行い、全教職員で指導に取り組む。
道徳の教科として計画を実施している。資料・内容の見直しが必要である。生活に密着した取組が必要である。	教科としての道徳教育の系統的な取組は計画ができてはいるが、生徒の実態とのすりあわせが今後必要である。	道徳時間の確保とあらゆる機会を通じて指導を行う。教科としての取組計画を確立する。生徒に合った道徳資料の収集と利用方法を研修を行う。
人権学習を中心に計画をし指導案の共通理解はできているが、新しい先生が増える中、教師間の人権意識の向上が必要である。個々の生徒の意識は高まっている。	基本的生活指導を必要とする生徒は少ないが、まだまだ確立していない生徒は各学年数名いる。人権学習等も含め継続的な指導が必要である。	基本的生活習慣の確立と教師間の人権意識を向上させる研修会の充実を図る。
6校合同研修会を中心に、教務・英語・総合育成支援等の合同研修を行った。	多くの分掌が会議ができた。	薬物等の教室を実施し、生徒の理解を深める。必要に応じて指導を行なう。
		小中一貫の取組は、他中学校区も含め、分掌単位の連携がさらに進める必要である。



学校名(京都市立近衛中学校)

学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
生徒は、授業を整然と受けている。しかも、積極的に発言している。	授業参観を増やして、生徒の様子を保護者・地域に公開する。
家庭学習の必要性は理解できている。	単に宿題をするのではなく、課題をもって実施していることを保護者に伝えてほしい。
いろいろな取組をしてもらっていることを理解した。	保護者に取組の内容を知らせてほしい。
地域行事等に参加していて、規律ある行動がとれている。	もっと地域に生徒が参加できるように、学校・保護者・地域等が連携を取組を行う。
道徳の教科になることは知っている。	今後、地域も道徳教育について協力していきたい。
元気に登校する姿を見ている。	地域で子どもをみた行きたい。
薬物に関する知識は、地生連で学習した。	薬物乱用や防煙教室に保護者も参加できるように設定してほしい。
地域の方から、先生が個々の生徒に対して、細かく見てくれていると聞いている	地域や保護者が参加できることを増やしていく。

3 総括・次年度の課題

- ・「生徒一人一人を徹底的に大切にすること」を徹底している。しかし、まだまだ不登校生徒が多く、個々の状況・環境等が違うので、その生徒に応じて担任を中心に学年で常に共通理解を行い、必要に応じて学校体制で取り組む。
- ・生徒や保護者、地域の願いを真摯に受け止める取組等がまだまだ十分とはいえない。特に地域参加型の取組が少ない。地域の団体等と連携し、地域や保護者と生徒がふれあえる取組を企画する。
- ・道徳の教科化に向けて、年間計画・取組内容を精選し、体系化を行なう。
- ・6校合同研修会の継続と、全分掌の会議を進める。